

ハイマダラノメイガ情報第1号（キャベツ、ハクサイ）

令和5年10月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

発生に好適な気象が続きます。ほ場での発生状況に注意しましょう！

1 発生状況

- (1) 9月下旬の巡回調査において、ハクサイほ場における寄生株率は1.27%（平年0.38%、前年0.10%）で、過去10年で最も高く、被害株率は2.36%（平年1.33%、前年1.40%）で、過去10年で3番目に高い状況です。
- (2) 9月下旬の巡回調査において、キャベツほ場における寄生株率は0.15%（平年0.10%、前年0.25%）で、過去10年で3番目に高く、被害株率は0.20%（平年0.26%、前年0.40%）で、平年並の状況です。

2 防除対策

- (1) ハイマダラノメイガは夏期、秋期が高温・少雨の年に多発する傾向があります。本年は9月の気温が平年より高く、降水量が平年より少なく推移し、本種の発生に好適な状況でした。名古屋地方気象台9月28日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と見込まれており、本種の発生に好適な状況が続くため、ほ場での発生状況に注意しましょう。
- (2) ハイマダラノメイガの幼虫（図1）は、主に成長点部を食害します。成長点部を食害されると、正常な結球が望めなくなるため、早期発見、早期防除に努めましょう。
- (3) は種時や育苗期後半、定植時には粒剤や灌注処理剤で防除しましょう。その後は散布剤で防除しましょう。薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の薬剤を連用しないようにしましょう（表）。
- (4) 育苗時は、目合い2×4mm以下の防虫ネットなどで覆い、成虫（図2）の侵入を防ぎましょう。



図1 ハイマダラノメイガ幼虫



図2 ハイマダラノメイガ成虫

表 ハイマダラノメイガの主な防除薬剤

作物名	農薬の名称	使用時期	使用方法	IRAC コード※
キャベツ	エルサン乳剤	収穫14日前まで	散布	1B
	プレオフロアブル	収穫7日前まで	散布	UN
	アフーム乳剤	収穫前日まで	散布	6
はくさい	エルサン乳剤	収穫21日前まで	散布	1B
キャベツ はくさい	ミネクトデュオ粒剤	は種覆土後～育苗期後半	散布	28 4A
	プレバソンフロアブル5	育苗期後半～定植当日	灌注	28
	ベリマークSC	育苗期後半～定植当日	灌注	28
	グレーシア乳剤	収穫7日前まで	散布	30
	トルネードエースDF	収穫7日前まで	散布	22A
	アニキ乳剤	収穫3日前まで	散布	6
	ディアナSC	収穫前日まで	散布	5
	プレバソンフロアブル5	収穫前日まで	散布	28
	プロフレアSC	収穫前日まで	散布	30

※IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。